

MIRAI no KOE



2017年3月3日に開催されました「ミラリスピーカー・カーヴィー」発売記念【音のバリアフリー体感イベント】で行われたトークセッション『「みんなに聴こえやすい」音のバリアフリー社会について』で語られた内容をご紹介します。

◆ 参加スピーカーのご紹介



91歳の家族と暮らすミラリスピーカーユーザー
日刊スポーツ新聞社 編集部
首藤 正徳氏



タイバーシティに関する複数のプロジェクト開発に従事し、
ご自身も重度の難聴者である、株式会社電通 未来製造グループ/
電通ダイバーシティラボ チーフ・リサーチャー
阿佐見 綾香氏



株式会社サウンドファン 代表取締役
佐藤 和則

【テーマ1:聞こえづらさにおける社会の現状】

(阿佐見さん)

行政も民間も対応が遅れていると感じています。

聞こえづらさの課題を抱えている方々は、軽度の方を含め日本人の9人に1人*いらっしゃいます。そういう方々に対して、「何もしない」「対応しない」ということが差別であるということが、明文化されたのが、2016年4月に施行された障害者差別解消法です。しかし、具体的に「どうしたらいいのか?」「必要なことは何なのか?」というところまで決まっていないのが現状であると思います。

例えば、病院で呼び出される時、聞き取れないことも多いものです。駅で電車の遅延理由もわかりません。また、近代的でおしゃれな建物のレストランなどは、音が反響してしまって、会話が聴きづらいこともあるのです。だから、会話がしやすい飲食店は自分でリストをつくったりしています。

このように不便を感じることも多いのですが、社会問題として議論されていない、と感じています。

* 一般社団法人 日本補聴器工業会 JapanTrak 2015 調査報告 Page4、Page14 に基づく出典

商品・試聴等に関するお問い合わせ先



SoundFun!

“音”で世界の人を幸せにする!
株式会社 サウンドファン

東京都台東区浅草橋1-32-6コスモス浅草橋酒井ビル4F <http://soundfun.co.jp>
TEL:03-5825-4749 FAX:03-5825-4794 e-mail:info@soundfun.co.jp

MIRAI no KOE

(首藤さん)

2年前に仕事で、パラリンピック選手たちの取材をきっかけに、障がい者を取り巻く環境について関心をもっています。2020年東京オリンピック・パラリンピック開催が決まって、車椅子ユーザーや、視覚障がい者が社会に出やすいように、体育館や駅などのバリアフリー化が進んでいると感じています。それに比較すると、耳の聴えづらい方々のバリアフリーについては、社会の対応は遅いなという印象です。電光掲示板や字幕スーパーなどの設置は進んでいる様ですが、電車が突然停止した際の車内アナウンスや、公共施設の館内アナウンスなどは、聴こえづらい人への対応は特にしてないことが多い。緊急事態などがおきた際、健聴者との情報格差は相当大きいのではないかと心配しています。



(佐藤)

実際、この仕事をはじめから、みなさん公表していないだけで、世の中にはこんなにも、聴こえに困っている人がいるのだと感じています。それに対して、日本は障がい者手帳を持っている方は40万人くらいで少ないと思われがちですが、実は、日本は聴覚障がい認定基準が、厳しいようです。ヨーロッパなどの基準からしたら、もう少し多くの方が聴こえづらさに関して困っているのではないのでしょうか。

そのような、難聴の方に対して、障害者差別解消法という法律は施行されたのですが、具体的に何をしたらいいのか？、認知されていませんし、音のバリアフリーに対しては非常に遅れている印象ですね。

【テーマ2: 望ましい音の環境とは】

(阿佐見さん)

聴き取りづらい方へ対応しようとすると、多くは『文字』だけで解決しようとする人が多いと感じます。しかし、音を音のまま解決するのが理想的だと感じます。それは、入ってくる情報量が大きく異なるので、そのように思います。

現在、「こういった音が聴きとりやすい」「このスピーカーが聴きとりやすい」など明確な基準がありません。だから、自分で聞いて使ってみて、聴こえやすいかどうか、試していくしかないのです。

私は、なかなか自分に合うスピーカーを見つけることができませんでした。ミライスピーカーを紹介されて聞いてみると、単語が圧力をもって「ス」っとならびに耳に入ってくるんです。自分で集中して聞かなくても、すんなり言葉が聞き取れるので驚きがありました。今は、自宅でテレビに繋いでミライスピーカーを使っていますが、入ってくる情報の量が変わってきたと実感しています。テレビに集中しなくても音でニュースの内容などが「スツ」っとならびに耳から入ってくるので、自然に耳から情報を得ることができるようになりました。

私の主人は健聴者なので、ミライスピーカーの音による言葉の聴き取りに違いを感じることはないのですが、隣の部屋にいても、小さい音でも内容がしっかり聴こえると言っています。



商品・試聴等に関するお問い合わせ先

 **SoundFun!**

“音”で世界の人を幸せにする!
株式会社 サウンドファン

東京都台東区浅草橋1-32-6コスモス浅草橋酒井ビル4F <http://soundfun.co.jp>
TEL:03-5825-4749 FAX:03-5825-4794 e-mail:info@soundfun.co.jp

MIRAI no KOE

(首藤さん)

私は、1年前から自宅でミライスピーカーを使っています。

91歳の義理の母が80台半ばから耳が遠くなって、テレビを大音量で見っていました。暇なので、朝から晩までテレビを見ている。どんな音量かというと、我々が15-20の音量で見ているテレビを、30後半から40の音量でテレビを見ているのです。夏は窓を開けているので、帰宅時、自宅に近づくと外からでもテレビの音量が「バーン」と聞こえてくる状況だったんです。

補聴器も買ったのですが、「雑音がするから」ということで、家ではしたがないんですよ。そういうことでテレビは大音量になっていました。

そんな状況でしたので、近所から苦情がくるのではないかと心配していました。また、テレビの大音量は、一緒に住んでる家族にとって、ものすごいストレスになるんですね。だから、テレビの音量で親子でよく言い争いがあったんです。

そんな状況であった中、去年、知人からミライスピーカーを紹介されました。まずは、オルゴールと下敷きでミライスピーカー聴こえを試してみ、義母が「よく聴こえるね」という反応でしたので、購入することにいたしました。

商品が届いて、設置、テレビに接続して母にテレビを見せたら、音量20で聴こえるようになりました。正直驚きました。また、家族も、テレビの音量も小さくなって、揉め事が少なくなりましたね。私たちも義母と一緒にいて、音によるストレスが無くなったので、ミライスピーカーを買ってよかったと思っています。

(佐藤)

テレビに繋いで音量が下がって、本人も嬉しいけど、家族も喜ぶというアプローチもあるのですが、難聴の方の一番のニーズは、人と人とコミュニケーションしたいというニーズが一番です。

例えば、病院が聞こえやすいとはどういうことか。

普通は、呼ばれたら診察室へ行って、呼ばれたら会計して帰りますよね。でも、難聴の方は、耳が問題があるから病院へ行っているのに、病院にいる間中「いつ呼ばれるんだろう」と、ずっと緊張して病院の中にいるんです。順番を抜かされたり、聞き逃して遅れていたら怒られたり、会計が終わって病院を出るまでホっとすることができないんですね。私達のように、病院の待ち時間にスマホみたり本読んだりできないんですよ。

もっと、公共の中で、生活の中で、聴きやすい環境をつくりたいなと思っています。



【テーマ3: 今後の聴こえの環境はどのように変化していくか】

(阿佐見さん)

2020年に向けて、ダイバーシティ化への取り組みがこれまで以上に求められると思います。そうなったら「聴き取りやすさ」という観点で対応が進んでいくことを期待しています。

障害者差別解消法でも、合理的配慮という言葉で指し示されていると思いますが、最初から完璧な対応を求められているわけではなくて、できることから無理のない範囲で対応されればよいなと思っています。



MIRAI no KOE

(首藤さん)

ミライスピーカーを使うようになって、日常に音声情報って色々あると改めて感じています。現在は、自宅のテレビにミライスピーカーを繋いでいてテレビの音は聞こえますが、家のインターフォン、家の電話、区の防災無線放送など義母には聴こえないんですよね。また、週3回デイサービスに通っていて、そこにテレビがあるのですが、そのテレビの音が義母には聴こえないようです。だから、そのような高齢者施設にもミライスピーカーが広がると、もっと聴こえづらい人が生活しやすいようになるのではないかと思います。

もう一つ、最近、義母の認知症が進んでいます。そこで思ったのが、もっと聴こえる環境で生活していれば、こんなに進行しなかったのではと思っています。5-6年前から聴こえづらくなってきて、こちらから話しかけても、聴こえるふりをして返事をしていたんだと思うのです。そうなると会話が少なくなるんですよね。また、聴こえづらくなることで、今まで参加していた行事に参加しなくなって、周囲とのコミュニケーションが極端に減ったんです。耳から入ってくる色々な情報を、頭の中で噛み砕いて答えるという『当たり前』のことがある生活が、認知症の予防にもなるのではと感じています。聴こえる環境って重要になってくると思っています。

(佐藤)

3.11 震災があった際に、音による情報が聴こえない聴覚障害者の死亡率は、健聴者の2倍とも言われています。そういうところに、公共の災害用スピーカーとして、ミライスピーカーを活用できたらと考えています。また、選挙カーなどについても、音を遠くに届けるために大音量でアナウンスを流していますが、煩いんですよね。煩くなくて、きちんと音による情報を届けることができるミライスピーカーがここでも使っていただけるかもしれません。

健聴者・難聴者含めて「聴こえやすい」音のバリアフリー社会を、補聴器・手話・要約筆記など否定しないで、共存して実現していければ、難聴者も健聴者も、聴きやすい環境にしていければいいなと思っています。



※2017年3月3日開催 「ミライスピーカー・カーヴィー」発売記念【音のバリアフリー体感イベント】トークセッションの内容より抜粋し、文章として読みやすいように編集いたしました。

商品・試聴等に関するお問い合わせ先



Sound Fun!

“音”で世界の人を幸せにする!
株式会社 サウンドファン

東京都台東区浅草橋1-32-6コスモス浅草橋酒井ビル4F <http://soundfun.co.jp>
TEL:03-5825-4749 FAX:03-5825-4794 e-mail:info@soundfun.co.jp